

第2次宗像市男女共同参画プラン
平成30年度実施状況報告に対する意見書

令和2年3月17日

宗像市男女共同参画推進懇話会

令和2年3月17日

宗像市長 伊豆 美沙子 様

宗像市男女共同参画推進懇話会
会長 石山 さゆり

平成30年度「第2次宗像市男女共同参画プラン」の実施状況報告について審議した結果、下記の通り意見を付して提出します。

1. 総括

第2次宗像市男女共同参画プランは平成23年に策定され、平成27年度にはプランの見直しが行われ46事業に修正され後期計画が作成されました。平成29年度はさらに7つの重点事業を設定しております。

平成30年度の事業評価を4つの基本目標別にみると、基本目標1「ワーク・ライフ・バランスの確立に向けた社会づくり」はA評価50.0%（平成29年度53.8%）、基本目標2「一人ひとりの人権が尊重される社会づくり」ではA評価84.0%（平成29年度75.0%）、基本目標3「性別にとらわれない社会づくり」ではA評価57.1%（平成29年度85.7%）、基本目標4「個性と能力を發揮し、男女がともに参画できる社会づくり」はA評価54.2%（平成29年度45.8%）でした。全事業を統合した評価では、A評価が62.1%（平成29年度62.5%）であることを考え合わせると、事業目標はおおむね達成していると考えられます。主管部署である男女共同参画推進課を中心として、庁内部署が横断的に関わり、多くの職員がその趣旨を理解し、地道な努力により改善が進んでいるものと思料いたします。しかしながら、昨年度に比し評価が30ポイント近く低下した基本目標3については、その原因についてきちんと分析を行い、その結果を踏まえて、より多くの方に男女共同参画の理解が浸透するよう、宗像市として一層取り組んでいく必要があります。

昨年度にも提言いたしましたが、懇話会委員として、本事業を理解するうえで大変困難であることは事業のPDCAサイクルが見えにくいことです。具体的には以下の3点です。

1. 細分化された事業内容の各目標をみるとあまりにも多岐にわたる目標のため、プランの本来の目標を見失う。
2. 実施状況はあくまでも紙面上の評価であり、その実態がイメージしにくい。
3. 事業のアセスメント（評価・分析）の記載がないので、次年度の具体策が立案されていない、あるいは次年度の計画が妥当かどうか評価できない。

これらの課題を踏まえ、策定に着手した第3次プランにおいては、市民アンケートや第2次プランの取り組みをアセスメントし、より『見える形』での課題への取り組みや評価手法の見直しが行われ、宗像市の実情に沿った具体的なプランになることを期待するとともに、次年度のプランの実施にも取り組まれることを期待いたします。

2. 基本施策ごとの意見

基本目標Ⅰ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の確立に向けた社会づくり

(1) 家庭生活における男女共同参画の推進

男女という性別のくくりを取り払い、家族を構成する人間としての役割を考える視点が大切だと思います。現在推進している講座、研修を継続するほか、役割分担を家庭の中で話し合うことや、相手を思いやる言葉、できる時にできる人が家事をすることなどを伝えていくことが必要であると考えます。

男性の家事・育児参画の度合いは家庭内の話し合いはもちろん、それぞれの職場の環境や、家庭を取り囲む周囲の環境(親族、地域、支援体制)によって大きく異なるため、各分野で継続的に、手法を試みながら男女共同参画の視点を啓発する必要があると考えます。また、男性向け講座は、夜間・週末実施が効果的であるので、引き続き継続していただきたいと思います。内容についても、家事・育児に興味を持ち、参画することの意義に気付かせ、渋々ではなく率先して参画したくなる魅力あるアプローチを期待しています。また、すでに家事や育児への参画ができている層ではなく、できていない層を巻き込んでいくような企画づくりや仕組みづくりが必要であると考えます。その際、できている層と十分にできていない層を繋げていくような取り組みも効果があると思われる。

(2) 両立しやすい職場環境づくり

性別や年齢に応じたワーク・ライフ・バランスを目指す場合、社会活動への参加や個人の資質を高めるための余暇の確保、育児、介護時の支援体制など、事業所への啓発活動、研修会等の開催が今後一層必要であると考えます。

啓発冊子の配布は取り掛かりとしては効果的ですが、次の段階として企業の実態把握や今後の取り組みへのフォローが課題になると思われます。余暇活動の充実を推進する取り組みを行う企業や、宗像市役所での時間外削減・福利厚生の実等を含む取り組み事例等を紹介するような展示やセミナー等の企画が参考になると思います。

経営者、管理職を対象とした企業への啓発促進は重要ですが、宗像市の支援の具体的な目標や方向性が不明確であるため、「事業(数値)目標」を明確に示す必要があると考えます。

基本目標Ⅱ 一人ひとりの人権が尊重される社会づくり

(1) あらゆる暴力根絶のための対策と推進

DV相談窓口の充実や関係機関との連携強化に力を入れており、評価できます。今後は、児童虐待とDVの関係機関の連携強化や、DV被害者では男性やLGBT、若年層、外国人等への対応も必要となっており、幅広い支援体制の構築が重要であると思われます。

(2) 生涯を通じた女性の健康支援

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の概念は、なかなか理解しづらく浸透が難しいものなので、丁寧かつわかりやすい概念説明が必要です。女性の権利なのですが、カップルとしての権利でもあります。男性の理解を深めるためにも、この事業をもう少し拡

充して男性が参加しやすい講座等を増やす必要があると考えます。その積み重ねが、将来、男性による子育て参加につながると思われます。また、中高年女性向けに、細かなテーマに分けた講座等による健康づくりの機会を提供することも大切です。周知が進めば、参加者は増えていくのではないかと思います。

他の自治体による事業取り組み例も参考になると思います。

(3) みんなが安全に暮らせる社会環境づくり

弱者を守り、安心安全に暮らせる環境づくりのために必要なハードを整備するとともに、見守るというソフト面での男女共同参画の視点が発揮されることを願っています。

防災・防犯の計画や啓発に女性の視点を取り入れる試みは重要であり、効果的でもあります。引き続き取り組みを進めていただきたいと思いますし、併せて子どもや高齢者、障がい者の視点からの十分な施策も期待しています。

基本目標Ⅲ 性別にとらわれない社会づくり

(1) 男女共同参画意識の浸透

男女共同参画の意識の浸透には、一方的な啓発や広報活動では言葉だけがひとり歩きしてしまう恐れがあります。そのため、子どもたちの教育現場から始まり、家庭で生まれ、職場や地域で実践されていくプロセスが必要であると考えます。行政レベルの取り組みを柱として、各地域（各地区）において、地域に根差した男女共同参画を推進する組織・グループをどのように育成し支援していくことができるかが、宗像市全体の男女共同参画の推進において重要になると思われます。

(2) 教育・学習の場における男女共同参画の推進

若い時の教育は大切です。性別に関わりなくお互いを尊重することや家庭での取り組みの大切さの啓発に力を注いでほしいと思います。既に取り組みされていることを継続しつつ、性的少数者への理解を醸成することも、学校教育の場を中心に進めて欲しいと思います。また、学校教育だけでなく、就学前からの家庭での取り組みがいかに大切かを伝える必要があると考えます。

基本目標Ⅳ 個性と能力を発揮し、男女がともに参画できる社会づくり

(1) 政策・方針決定過程への女性の参画の推進

「男女共同参画」という概念を理解してもらい、なおかつ浸透させるためには、何段階かステップが必要であると考えます。会議の場に女性がいて「男女共同参画」が進むわけではありません。多様な考え方が受け入れられ、女性が持てる力を発揮できるような環境を整えていくことが重要です。

コミュニティレベルでの政策・方針決定過程への女性の参画推進は地域の重要課題です。市の審議会等委員の女性参画促進の目標値設定と同様に、コミュニティレベルでも明確な目標値の設定が必要であると考えます。行政主導での目標値の設定が難しいなら、コミュニティごとに女性参画促進の将来ビジョンとともに目標値を設定してもらうことも可能であると思われます。

(2) 地域・社会活動への男女共同参画の推進

若手（30・40代）の地域リーダーの育成と並んで、女性の地域リーダー育成はこれからの地域の発展を左右する最重要課題のひとつです。取り組みを進めていくためには、「今住んでいる宗像市でどう暮らしていくか、どうしたら暮らしやすくしていけるか」という、誰しもに関わるテーマへの問題意識を、市民のみなさんに十分持って頂く必要があると考えます。「ともに、このまち（地域）で暮らす人間同士」で協働できることは何かを考える、あるいは逆に、それぞれの世代、それぞれの家庭内の状況で、抱えている「生きづらさ」は何か、「困りごと」は何かを共有できる場があることで、まち（地域）のあり方にも関心が向くようになるのではないかと思います。そこに、女性が働いているかどうかの違いは関係なく、男性か女性かの差も関係ありません。自分の暮らし・生き方につながる、まち（地域）のあり方が大事なものは、誰にとっても同じだからです。そのような考え方で、市民のみなさんと自治体の双方での、まちのあり方を検討できるようになって初めて、多様な視点が必要であることがわかり、その結果、女性の参加者が増え、男女関係なく多様な世代の方々がバランスよく参加できるようになると思います。その過程において、リーダーが育成されていくものだと思います。理想に近づくためには時間もかかりますが、女性の参画者を増やすために、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

(3) 職域における男女共同参画の推進

講演会、研修、アンケートなどで意識づけをされている事を、地道でも継続していく事が大切だと思います。

(4) 国際社会との連携

異文化について知り、学ぶ機会を、子どもたちにできるだけ多く与えることは大切なことですので、継続して取り組んでいただきたいと思います。